

日本発システマティックレビューにおける

文献検索の報告状況と質の評価

ーランダムサンプルに基づく予備的解析ー

小嶋智美^{1) 2)}、眞喜志まり¹⁾

1) 慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 HTA 公的分析研究室、

2) Independent Librarian

【目的】日本から発信されたシステマティックレビュー（SR）を対象に、書誌データベースを用いた系統的文献検索の報告状況と検索式の質を評価する横断的方法論的研究の実施に先立ち、本研究のプロトコルの妥当性を検証するため、ランダムサンプルによる予備的解析を実施した。

【方法】2025 年に公開された日本発の SR を対象に、PubMed、Embase、Cochrane Database of Systematic Reviews（CDSR）、医中誌 Web から SR を収集した。Rayyan を用いた二段階のスクリーニング後、random.org を用いて 50 件のサンプルを無作為に抽出した。各 SR の評価についても二段階の構造で行った。Phase 1 では PRISMA-S の 5 項目（データベース名・複数 DB 情報・完全検索式・検索日・ヒット件数）を主なゲート基準として用い、判定結果の相反を解消した後、5 項目すべてを満たす文献のみを Phase 2 へ進めた。Phase 2 では PRESS の 6 ドメイン（リサーチクエスションの翻訳・検索演算子・件名標目・テキストワード・スペル/構文・制限とフィルター）を 3 段階（A：修正不要、B：修正提案、C：修正必須）で判定した。PRESS では相反解消は行わず、方法論の妥当性と共に全データを対象とする本解析での評価基準を明確にするため、判定結果の一致度を見た。副次的な調査として、情報専門家の関与について明示の有無および各 SR で使用した書誌データベースの洗い出しを行った。

【結果】予備的解析の対象となった 50 件のうち、PRISMA-S によるゲート判定を通過したのは 2 件（4%）であった。2 件のうち 1 件はいずれかの評価者による C 判定が認められた。残る 1 件は全ドメインで A・B 判定となった。なお、PRESS に進んだ 2 件は、いずれも情報専門家の関与が論文内で示されていた。サンプル対象の 50 件で使用された書誌データベースの内訳については発表時に報告する。

【考察】予備的解析では PRISMA-S によるゲート通過率が 4%と低く、文献検索の質の評価以前となる、報告方法自体に課題があることが示された。PRESS による判定が可能であったのは 2 件にとどまったが、予備的解析を通して判断の揺れやすい PRESS の B と C の基準を明確にし、プロトコルを確定することができた。本解析では 2025 年公開の日本発 SR 全件を対象に、予備的解析によって確定したプロトコルで文献検索の報告状況と質を評価する予定である。なお、本発表に関わる関連資料は Open Science Framework (OSF) のプロジェクトページ (<https://osf.io/xgfq2/>) で公開する。